

平成 21 年 4 月 15 日現在

研究種目：基盤研究 (C)  
 研究期間：2006～2009  
 課題番号：18520375  
 研究課題名 (和文) ウェストサクソン方言福音書 6 写本 (古英語 5 写本と 13 世紀写本) の完全比較  
 研究課題名 (英文) Manuscript Variants in West Saxon Gospels — MSS CCCC140, Bodley 441, Cotton Otho C. i (vol. I), CUL Ii.2.11, Royal I.A xiv and Hatton 38 in Comparison  
 研究代表者  
 氏名 (ローマ字)：小倉 美知子 (OGURA MICHIKO)  
 所属機関・部局・職：千葉大学・大学院人文社会科学研究所・教授  
 研究者番号：20128622

研究分野：人文学  
 科研費の分科・細目：言語学・英語学  
 キーワード：英語史

## 1. 研究計画の概要

本研究では、古英語ウェストサクソン方言訳の福音書 5 写本と 13 世紀写本 1 つの、あわせて 6 写本を完全に転写し、一冊の刊本として仕上げることを目的としている。それをもとに語彙・形態・文脈の異同を見ることにより、これらの写本間の関係をより正確に把握することが出来るような形に仕上げたい。

## 2. 研究の進捗状況

まず、マイクロフィルムを入手しているものから転写を開始、イギリスへ行く際には写本を、他の国ではファクシミリを参照し研究書を読み、学会等に参加して発表を行い、研究者達と意見を交してきた。すでに MSS CCCC140, Bodley 441, CUL Ii.2.11, Royal I.A xiv, Hatton 38 までは転写が終わり、今年度の確認作業を残すのみである。MS Cotton Otho C.i (vol. I) は、現在目に見える範囲では転写したものの、最も損傷の激しい写本であるため、今年 7 月にイギリスに渡って British Library で確認作業を行う。他の写本についてはさほどの時間はかからないが、これだけは是非とも納得するだけの確認をしたい。幸いロンドン大学の Jane Roberts 名誉教授がアドバイスをくれるので、何とか仕上げるつもりである。Fragmental な MS Eng.Bib.C.2 に関しては、オックスフォードの Bodleian Library で確認するが、刊本の中でどう収めるかは、最後の仕上げの段階でレイアウトを考える。海外からの出版に関しては、introduction はじめ様々な問題もあるので、まずは今年度の終わりまでに報告書の形で仕上げるつもりである。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。ただ、研究者の主催する国際フォーラム、英語史学会の proceedings の出版、千葉大学大学院のプロジェクト研究の論文集の出版などが控えているため、時間を調整しながら、当初の目的だけは今年度内に達成できるよう努力する。

## 4. 今後の研究の推進方策

(1) まずは転写した原稿の中で、どうしても写本に当たらねば解明されない部分をピックアップしておき、7 月の渡英で写本の調査と確認を済ませる。その際、Roberts 教授にアドバイスをもらう。(2) 国際フォーラムに来ることになっているトロント大学の Antonette diPaolo Healey 教授と、写本の問題および出版の可能性について話し合う。(3) 10 月以降、原稿の作成に入り、来年 2 月までには報告書の形で完成させる。最終的には、ヨーロッパから出版する。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

- ① Michiko Ogura, "Periphrastic Readings and their Element Order in Old English Version of the Gospels", *Studia Anglistica Poananiensia* 44 (2008), 63-82. 査読有  
 ② Michiko Ogura, "Negative Contraction and Noncontraction in Old English", *Neuphilologische Mitteilungen* 109.3 (2008), 313-329. 査読有

③ Michiko Ogura, “Old English Preverbal Elements with Adverbial Counterparts”, in Hans Sauer and Renate Bauer (eds.), *Beowulf and Beyond* (Frankfurt am Main: Peter Lang, 2006), 101-117. 査読有

〔学会発表〕(計 7 件)

① Michiko Ogura, “The Interchangeability of the Endings *-ende* and *-enne* in Old and early Middle English”, ICEHL, 26 August 2008, München.

〔図書〕(計 2 件)

① M. Amano, M. Ogura and M. Ohkado (eds.), *Historical Englishes in Varieties of Texts and Contexts* (Frankfurt am Main: Peter Lang, 2008). 403 頁 (共編)

〔その他〕

書評論文：

① Yoshitaka Kozuka, *A Linguistic Study of the Authorship of the West Saxon Gospels*, 大阪大学出版, 2006, reviewed by Michiko Ogura, *English Linguistics* 25:1 (2008), 271-291.

書評：

① Linda Mugglestone (ed.), *The Oxford History of English*, Oxford University Press, 2006, reviewed by Michiko Ogura, 『英文学研究英文号』(2008), 130-135.